

今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.18

ハルゼミ

今年の4月、学校がまだ休校中の時、私が見つけた「セミの抜け殻」。
あの謎が、実体を伴って解ける日が来ました！校庭の草むしりをして
いたあの日、「土の中から、セミが出てきた！」と言うではありませんか。
そんなばかな、と思いつつ、どれどれと見てみると。確かに、小枝につか
まった、小さなセミ。しかも、その翅は透き通り、透かしの黒い模様が、
何とも言えず美しい。

そうです！「ハルゼミ」の雌です。皆さんが目にすることの多いセミといえば、「アブラゼミ」
「ミンミンゼミ」「ヒグラシ」などでしょうか。それらに比べ、あまりお目にかからないこの小ぶ
りな「ハルゼミ」は、実は、(アカ) マツ林に棲むセミなのです。しかも、木の上の方にいて、な
かなか見られないとのことでした。遡ること4月に完璧な「抜け殻」を見つけたとき、時期的にも
不思議だったので、虫についてよく教えて下さる川邊透先生にお聞きしたところ、そう教えて下
さいました。でも、学校のそばに松林は見当たらないし……。半分不思議のまま。

それが、あの日、そして、その後、3Aの廊下側の窓に挟まれて、続けざまに目にすることがで
きました。さて、先ほど、さらっと「雌」です。と書きましたが、なぜ、「雌」だと分かったので
しょう？それは、おなか側を見たときに、発音器官がなく、小ぶりだったからです。セミで鳴くのは「雄」
だけです。さて、セミは、その種類によって、活動する時期が大体決まっています。ちな
みに、「アブラゼミ」は、梅雨明けの前後に鳴き始めると言われています。(我が家の隣の公園は、
毎年セミの観察会が開かれるほどのセミパラダイスです。梅雨が明けた今日、待ってました！と
セミの大合唱です。)

さて、「セミ」は「カメムシ目」の昆虫です。えっ、あの臭い「カメムシ」ですか？そうです。
余談ですが、カメムシは、その強烈な臭いを頼りに、結構、スタイリッシュで美しいものが多いで
すよ。興味のある方、図鑑で調べてみましょう。また、あの「臭い」成分から、「香水」に含まれ
ているのと同じ成分が検出されるそうです。なんと不思議なことではないですか！

さて、話を「セミ」に戻しましょう。「セミ」は古来、日本でもその儂い寿命故、(実際は、土の
中で7年+地上で、長生きです。ちなみに、つい最近、セミの成虫の寿命7日説は間違いで、1か
月程だと、高校生が発表しており、びっくりしました！)

文学の世界にもしばしば登場します。例えば、『源氏物語』(誰が書いた作品でしょう？正解は、
「紫式部」です。)の中にも「空蟬」という美しい段があります。(何と読むでしょう？正解は う
つせみ 「せみの抜け殻」のことを言います。)また、近年の作では角田光代さんの『八日目の蟬』、
ショーン・タンの『セミ』(なかなか、怖い絵本です。気になった方は、国語科の先生まで声をか
けてください。)など、ベストセラーにも顔を出します。

最後に、皆さん「セミ」の死骸はなぜ、あんなによく目につくのだろう？しかも、ひっくり返っ
て。と思ったことはありませんか？私は、不思議だったので、川邊先生にお聞きしたところ、「セ
ミ」は、「鳴く」こと、「飛ぶ」ことに特化してしまったため、あまりバランスがよくないので、一
度ひっくり返ってしまうとなかなか元の向きに戻れないし、大きいから目につくのでは、とのこ
とでした。さあ、いよいよ、夏本番！楽しい不思議は身の回りにたくさんありますよ！

